

家計調査 平成20年4～6月期平均結果の概況

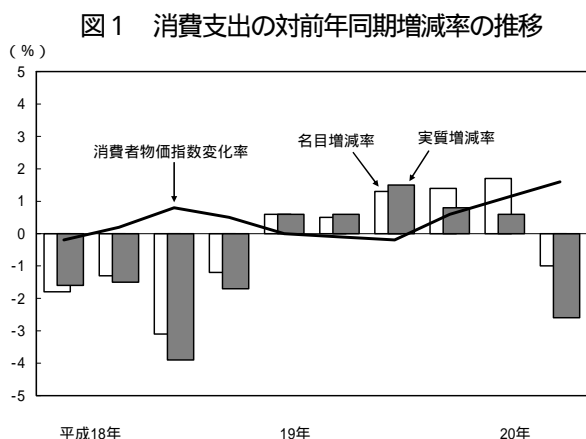
- 家計収支編（二人以上の世帯） -

家計収支の概要

1 消費支出は6期ぶりの実質減少

平成20年4～6月期の二人以上の世帯（平均世帯人員3.13人、世帯主の平均年齢55.8歳）の消費支出は、1世帯当たり1か月平均293,592円で、前年同期に比べ名目1.0%の減少、実質2.6%の減少となった。

最近の消費支出の動きを対前年同期比でみると、平成19年1～3月期から20年1～3月期まで5期連続して増加となっていたが、20年4～6月期は6期ぶりに減少となった（図1）。



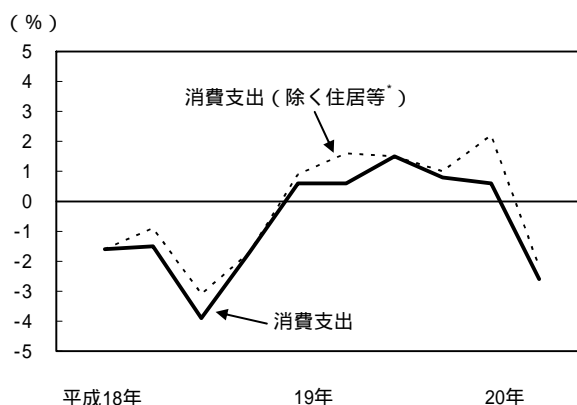
（注） は1～3月期、 は4～6月期、 は7～9月期、 は10～12月期を表す。以下同じ。

また、消費支出（除く住居等^{注1}）についてみると、平成20年4～6月期は前年同期に比べ実質2.2%の減少となっている（図2）。

注1) 「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」及び「仕送り金」を除いている。これらの見方については、「家計調査の結果を見る際のポイント」（下記URL）No.4を参照されたい。

<http://www.stat.go.jp/data/kakei/point/index.htm>

図2 消費支出の対前年同期実質増減率の推移

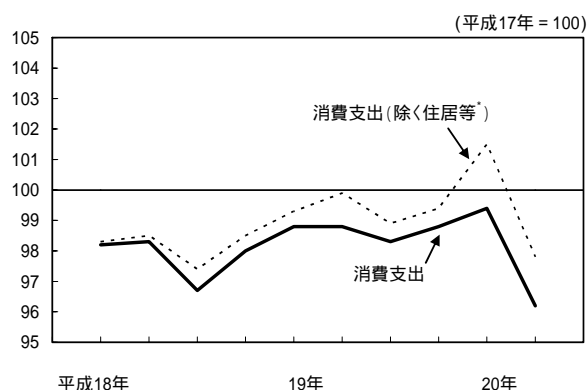


* : 「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」及び「仕送り金」を除いている。図3も同じ。

季節調整済実質指数で消費支出の足元の動きをみると、平成20年4～6月期は前期に比べ実質3.2%の減少となっている。

また、消費支出（除く住居等^{注1}）についてみると、平成20年4～6月期は前期に比べ実質3.6%の減少となっている（図3）。

図3 消費支出（季節調整済実質指数）の推移



2 その他の消費支出、食料などが実質減少に寄与

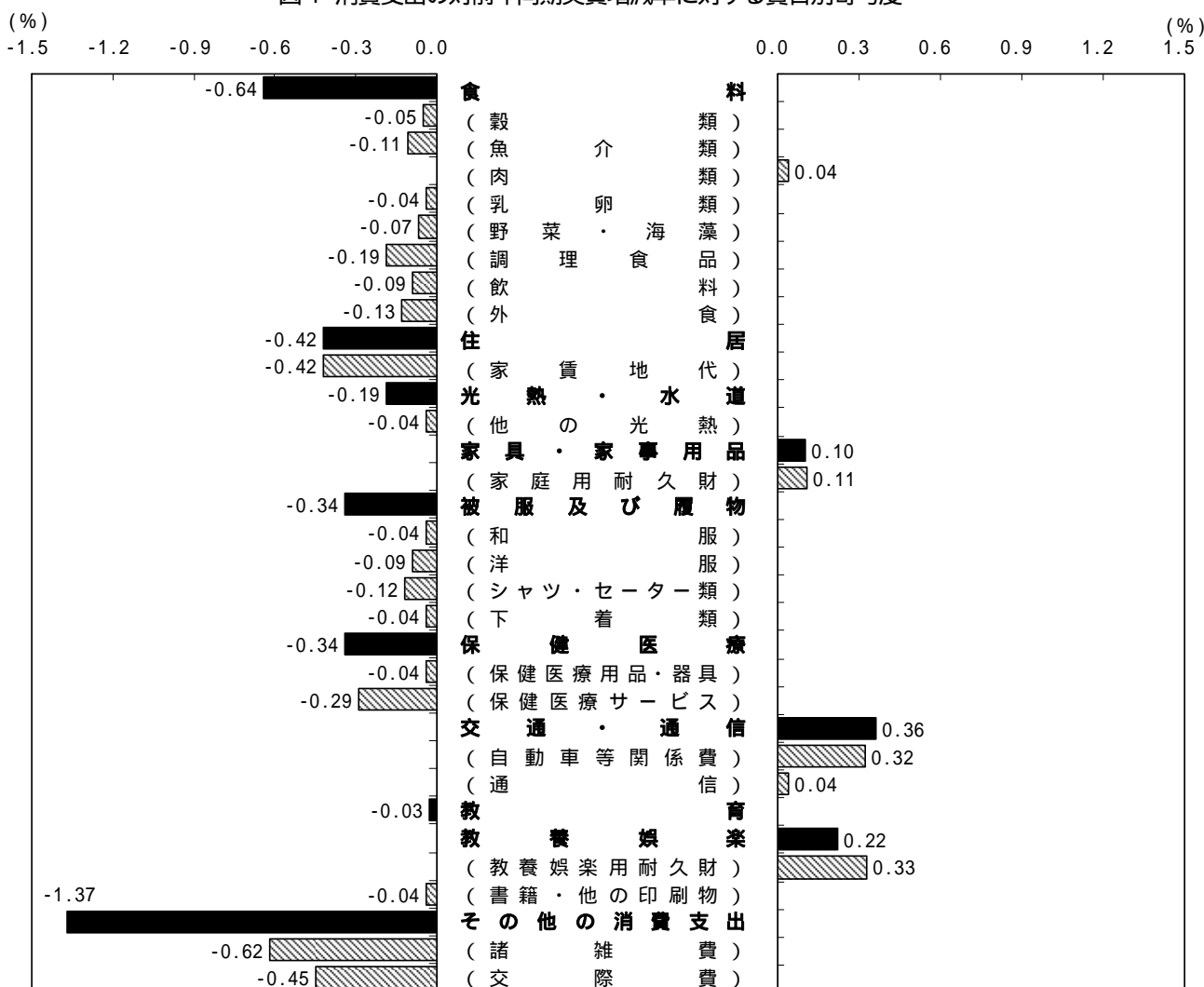
平成20年4～6月期の消費支出の対前年同期実質増減率に対する寄与度(%)を費目別にみると、諸雑費(-0.62)及び交際費(-0.45)を含む「その他の消費支出」(-1.37)のほか、調理食品(-0.19)及び外食(-0.13)を含む食料(-0.64)、家賃地代(-0.42)を含む住居(-0.42)が消費支出の減少に大きく寄与した。

また、シャツ・セーター類(-0.12)を含む被

服及び履物(-0.34)、保健医療サービス(-0.29)を含む保健医療(-0.34)、灯油などの他の光熱(-0.04)を含む光熱・水道(-0.19)、教育(-0.03)も減少に寄与した。

一方、自動車等関係費(+0.32)を含む交通・通信(+0.36)のほか、テレビなどの教養娯楽用耐久財(+0.33)を含む教養娯楽(+0.22)、電気冷蔵庫などの家庭用耐久財(+0.11)を含む家具・家事用品(+0.10)は消費支出の増加に寄与した(図4)。

図4 消費支出の対前年同期実質増減率に対する費目別寄与度



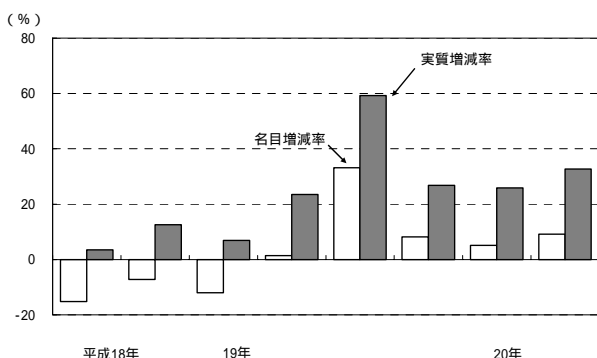
(注) 1. 平成20年4～6月期
 2. グラフ中の黒棒の部分は10大費目を表す。
 3. 「その他の消費支出」及び交際費の増減率の実質化には、消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)を用いた。

最近の家計消費の特徴

1 教養娯楽用耐久財への支出の増加

テレビなどの教養娯楽用耐久財の動きをみると、平成20年4～6月期は、前年同期に比べ実質32.7%の増加となり、15年4～6月期以降21期連続して実質増加となっている。また、平成19年4～6月期以降は、5期連続して20%以上の実質増加となっている（図5）。

図5 教養娯楽用耐久財の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

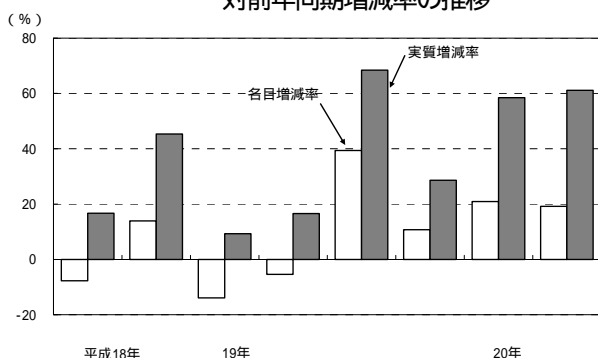


教養娯楽用耐久財の中の主な品目の動きは次のようになっている。

テレビ

テレビは、薄型テレビの販売が引き続き好調なこともあり、平成20年4～6月期は前年同期に比べ実質61.1%の増加となり、15年4～6月期以降21期連続して実質増加となっている（図6）。

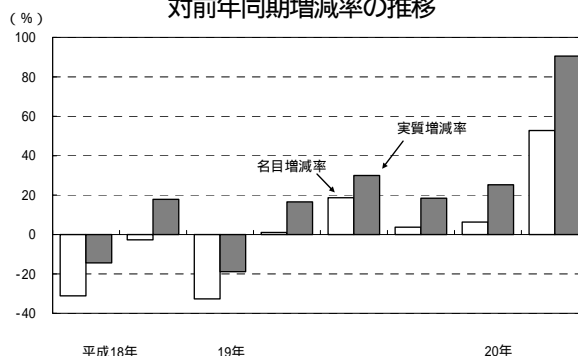
図6 テレビの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



ビデオデッキ

ビデオデッキ^{注2}は、平成20年2月に、次世代DVDの主流となる規格が事実上決定したこともあり、20年4～6月期は前年同期に比べ実質90.5%の増加と前期に比べ増加幅が拡大した。平成19年4～6月期以降は、5期連続して実質増加となっている（図7）。

図7 ビデオデッキの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

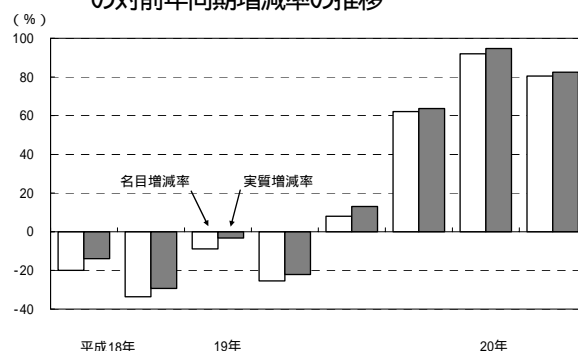


注2) 「ビデオデッキ」とは、テレビに接続して映像の録画・再生に使用するもので、ビデオテープレコーダーのほか、DVDレコーダー、DVDプレーヤー、HDDレコーダーなども含む。

携帯型音楽・映像用機器

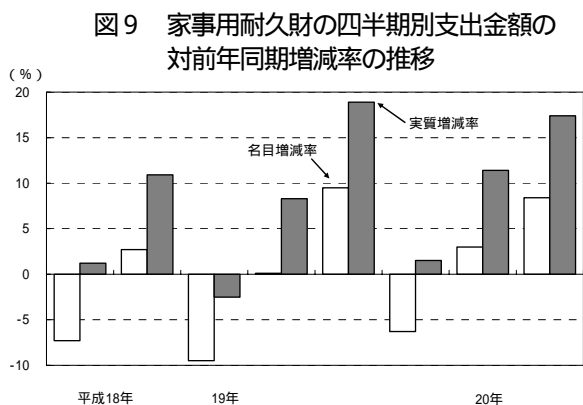
携帯型音楽・映像用機器は、平成19年9月に、大手メーカーから携帯型音楽・映像用機器の新製品が発売されたこともあり、19年7～9月期以降、前年同期に比べ4期連続して実質増加となっている。平成20年4～6月期は実質82.5%の増加と、19年10～12月期以降3期連続して60%以上の実質増加となっている（図8）。

図8 携帯型音楽・映像用機器の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



2 家事用耐久財への支出の増加

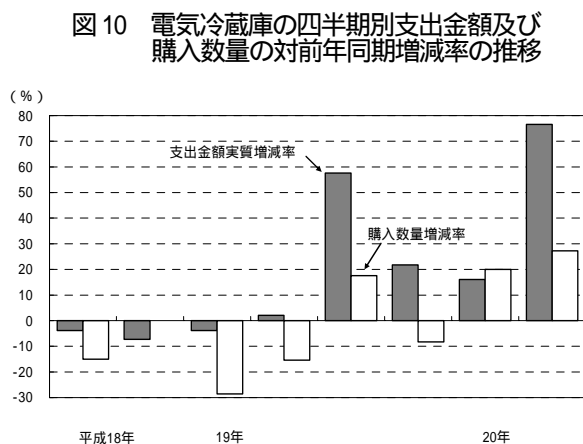
電気冷蔵庫などの家事用耐久財の動きをみると、平成20年4～6月期は、前年同期に比べ実質17.4%の増加となり、19年4～6月期以降5期連続して実質増加となっている（図9）。



家事用耐久財の主な品目の動きは次のようになっている。

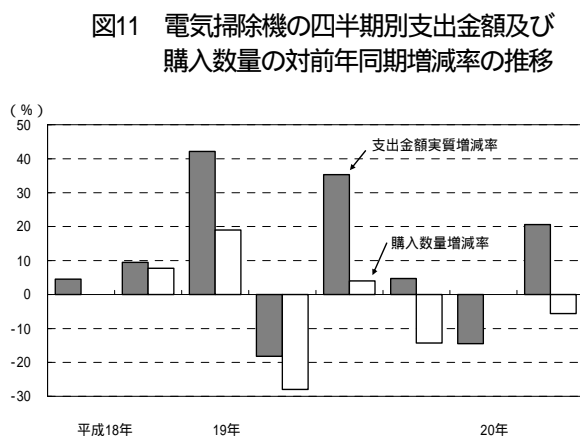
電気冷蔵庫

電気冷蔵庫の支出金額は、平成19年4～6月期以降、前年同期に比べ5期連続して実質増加となっており、20年4～6月期は実質76.6%の増加となった。購入数量は、平成20年1～3月期以降2期連続して増加となっている（図10）。



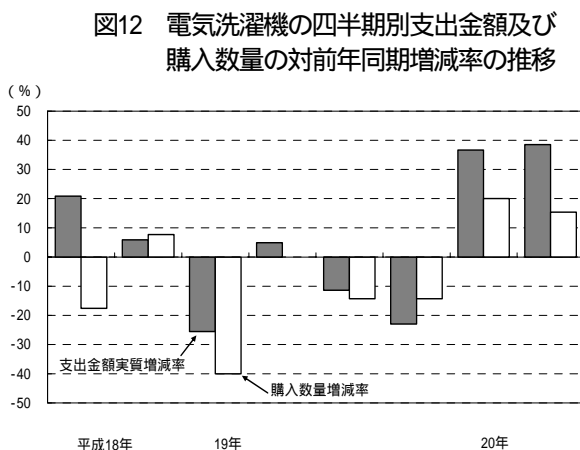
電気掃除機

電気掃除機の購入数量は、平成20年4～6月期は前年同期に比べ5.6%の減少となったものの、支出金額は、実質20.6%の増加となり、19年10～12月期以来2期ぶりに実質増加となった（図11）。



電気洗濯機

電気洗濯機の支出金額は、平成19年7～9月期以降、前年同期に比べ2期連続して実質減少となったものの、20年1～3月期以降は、2期連続して30%以上の実質増加となっており、20年4～6月期は実質38.5%の増加となった。購入数量は、前年同期に比べ15.4%の増加となった（図12）。

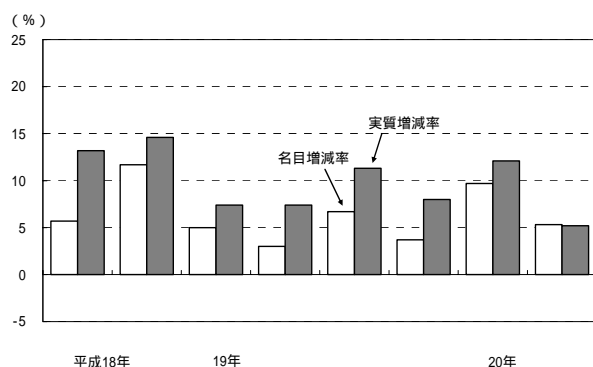


3 その他注目される品目の動き

移動電話通信料

移動電話通信料は、平成20年4～6月期は前期に比べ増加幅が縮小したものの、引き続き前年同期に比べ実質増加となっており、実質5.2%の増加となった(図13)。

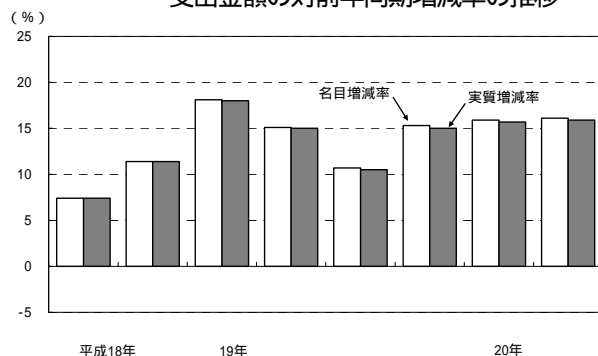
図13 移動電話通信料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



インターネット接続料

インターネット接続料は、平成20年4～6月期は、前年同期に比べ実質15.9%の増加となり、18年10～12月期以降、7期連続して10%以上の実質増加となっている(図14)。

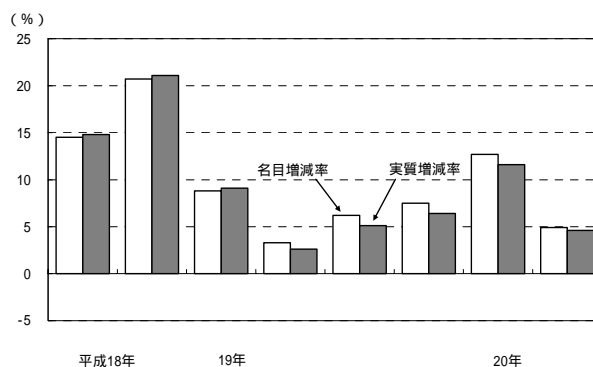
図14 インターネット接続料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



ケーブルテレビ受信料

ケーブルテレビ受信料は、平成19年1～3月期以降は、18年10～12月期より増加幅は縮小したものの、引き続き前年同期に比べ実質増加となっており、20年4～6月期は実質4.6%の増加となった(図15)。

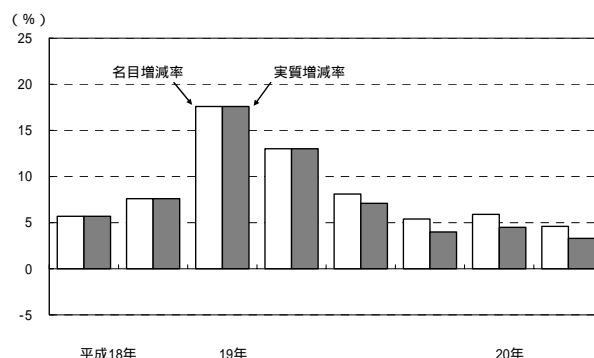
図15 ケーブルテレビ受信料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



非貯蓄型保険料

非貯蓄型保険料は、平成19年4～6月期以降、増加幅は縮小傾向にあるものの、引き続き前年同期に比べ実質増加となっており、20年4～6月期は実質3.3%の増加となった(図16)。

図16 非貯蓄型保険料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



最近の家計をめぐる事象

1 原油関連品目の動き

原油価格の高騰により、価格が上昇しているガソリン及び灯油について、支出金額の推移をみると、次のようになっている。

ガソリン

ガソリンは、平成20年4月1日からのガソリン税（揮発油税及び地方道路税）のいわゆる暫定税率の期限切れによる値下げや、5月の暫定税率再適用後の更なる価格の上昇により、20年4～6月期は、名目17.5%の増加、実質2.5%の増加と19年1～3月期以来5期ぶりの実質増加となった（図17）。

平成20年3月から6月までの日別支出金額を、

前年同時期の同曜日と比較すると、20年4月1日から8日まで及び4月24日から30日までは、前年同時期の同曜日を上回っていたものの、20年5月1日から4日までは下回った。また、平成20年5月30日から6月1日まで及び6月18日から30日までは、前年同時期の同曜日を上回った（図18、図19）。

図17 ガソリンの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

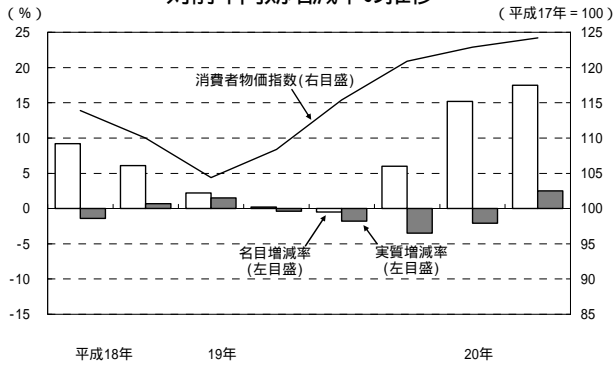


図18 ガソリンの日別支出金額の推移（平成20年3月～4月）

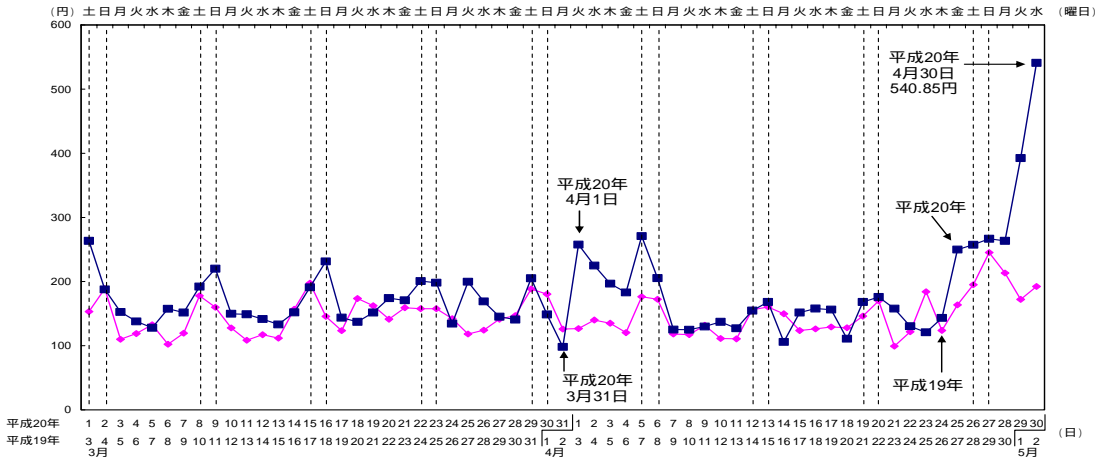
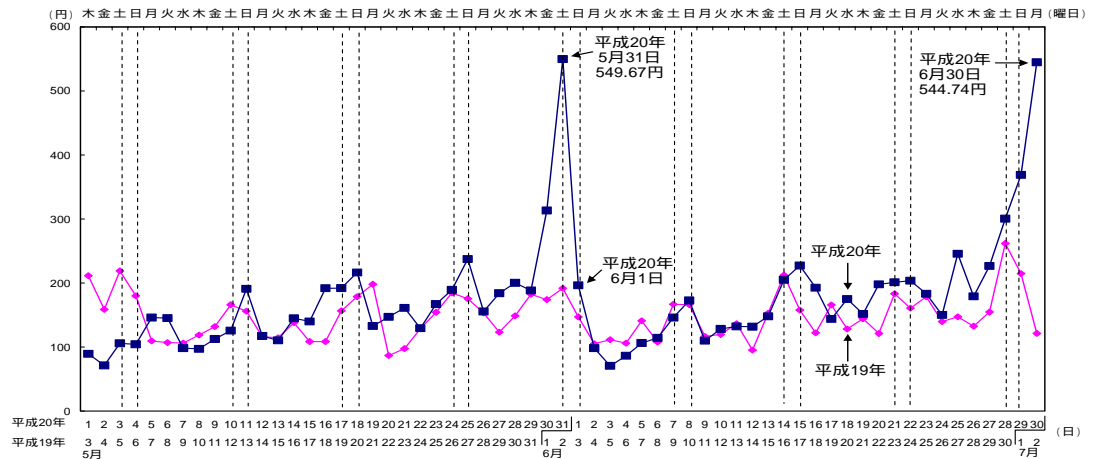


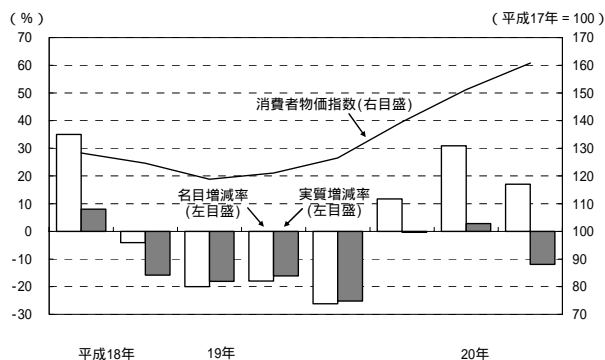
図19 ガソリンの日別支出金額の推移（平成20年5月～6月）



灯油

灯油は、平成19年10～12月期から価格が更に上昇したことなどにより、前年同期に比べ3期連続して名目増加となっている。平成20年4～6月期は、価格が前期に比べ6.3%上昇し、前年同期に比べ名目17.0%の増加、実質11.9%の減少となった(図20)。

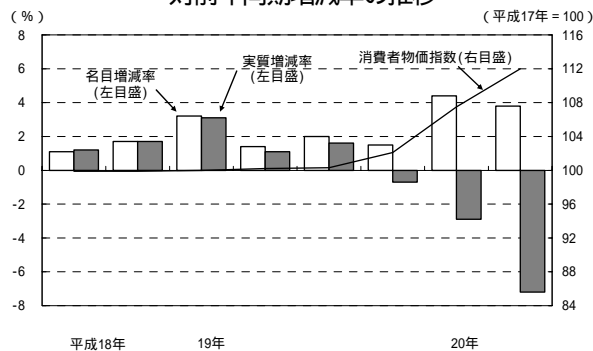
図20 灯油の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



パン

パンは、価格が前期に比べ5.3%上昇した平成20年1～3月期に引き続き、20年4～6月期は価格が前期に比べ4.2%上昇したこともあり、前年同期に比べ名目3.8%の増加、実質7.2%の減少となり、前期に比べ実質では減少幅が拡大した(図22)。

図22 パンの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



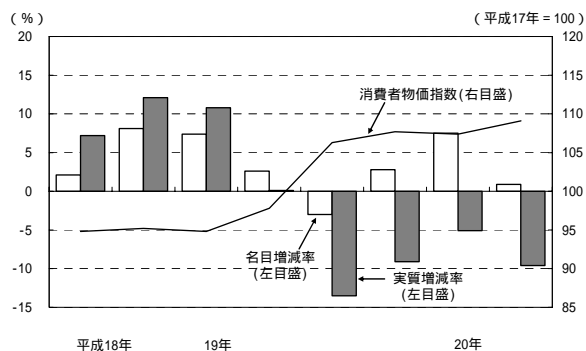
2 価格が上昇した主な品目の動き

原材料費の高騰もあり、様々な商品やサービスの価格の値上げが実施された。価格の上昇が世帯の購入に影響したとみられる品目についてみると、次のようになっている。

マヨネーズ・ドレッシング

マヨネーズ・ドレッシングは、平成20年4～6月期は名目0.9%の増加、実質9.6%の減少となった。価格が前期に比べ8.7%上昇した平成19年7～9月期以降は、4期連続して前年同期に比べ実質減少となっている(図21)。

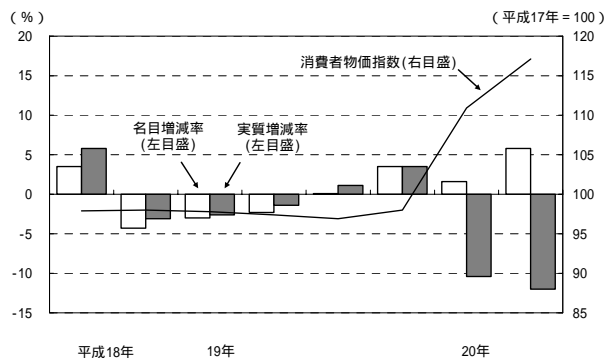
図21 マヨネーズ・ドレッシングの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



カップめん

カップめんは、価格が前期に比べ13.2%上昇した平成20年1～3月期に引き続き、20年4～6月期は価格が前期に比べ5.6%上昇したこともあり、前年同期に比べ名目5.8%の増加、実質12.0%の減少となり、前期に比べ実質では減少幅が拡大した(図23)。

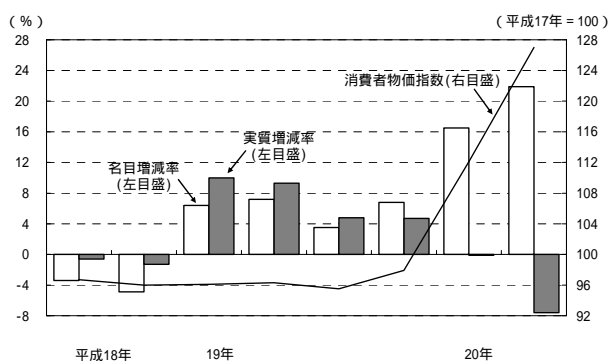
図23 カップめんの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



スパゲッティ

スパゲッティは、価格が前期に比べ14.5%上昇した平成20年1～3月期に引き続き、20年4～6月期は価格が前期に比べ13.3%上昇したこともあり、前年同期に比べ名目21.9%の増加、実質7.6%の減少となり、前期に比べ実質では減少幅が拡大した(図24)。

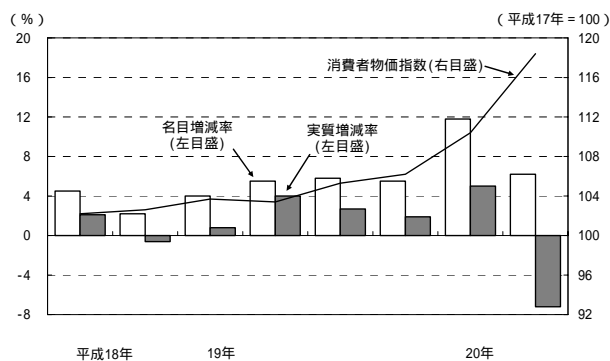
図24 スパゲッティの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



チーズ

チーズは、価格が前期に比べ4.0%上昇した平成20年1～3月期に引き続き、20年4～6月期は価格が前期に比べ7.2%上昇したこともあり、前年同期に比べ名目6.2%の増加、実質7.2%の減少となり、18年10～12月期以来6期ぶりに実質減少となった(図25)。

図25 チーズの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



3 中国産冷凍ぎょうざが原因と疑われる健康被害の発生の消費への影響

平成20年1月末に中国産冷凍ぎょうざが原因と疑われる健康被害の発生が大きく報道された。

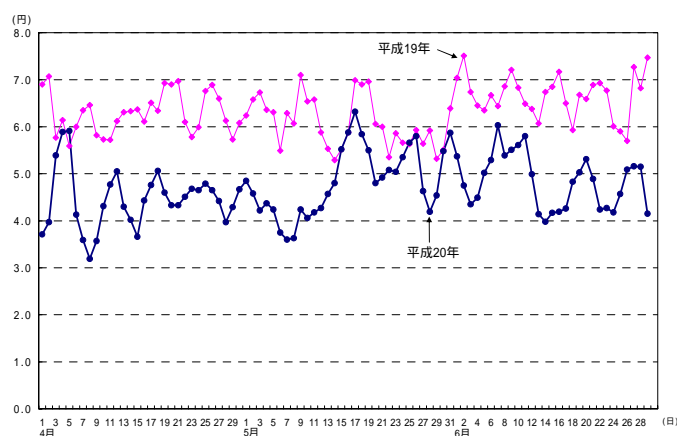
平成20年4月から6月までのぎょうざ^{注3}及び冷凍調理食品の日別支出金額からその影響をみると、両品目共に20年1月末から引き続き支出金額が前年に比べ減少しているものの^{注4}、冷凍調理食品は、前年との差が縮小してきていることが分かる(図26、図27)。

平成20年4～6月期は、ぎょうざは前年同期に比べ実質29.4%の減少、冷凍調理食品は実質21.5%の減少となった。

注3) 「ぎょうざ」とは、焼きぎょうざ、蒸しぎょうざ、水ぎょうざ、揚げぎょうざのほか、生も含む。ただし、冷凍品は「冷凍調理食品」に含まれている。

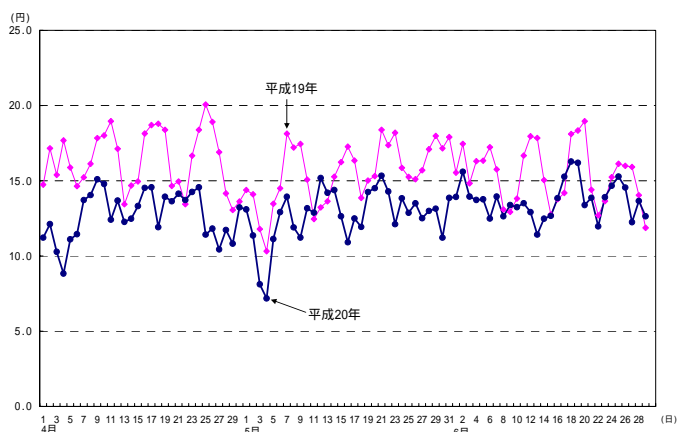
注4) 平成20年1月から3月までのぎょうざ及び冷凍調理食品の日別支出金額については、「家計調査 結果の解説 平成20年1～3月期」(下記URL)の8ページを参照されたい。
<http://www.stat.go.jp/data/kakei/gaikyo/pdf/2008q1.pdf>

図26 ぎょうざの日別支出金額の推移



(注) 支出金額は3日移動平均値である。図27も同じ。

図27 冷凍調理食品の日別支出金額の推移



6弱～1を観測した。津波の影響はなかったものの、土砂災害や家屋の倒壊などの被害が発生した。

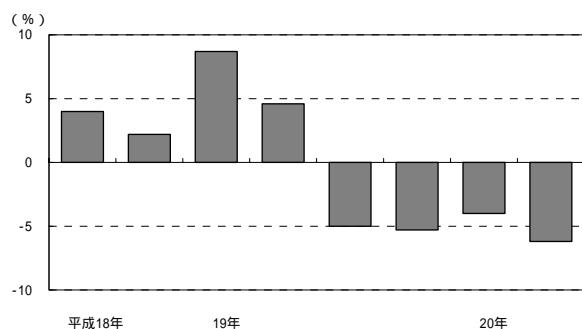
(平成20年8月29日 作成)

4 その他の家計をめぐる事象

洋服

洋服は、平成20年4～6月期は前年同期に比べ実質6.2%減と、19年7～9月期以降4期連続して実質減少となっている。平成20年4～6月期は、天候不順による春物及び夏物衣料の不振や、昨年は6月末から前倒しして実施されたバーゲンが今夏は例年通り7月始めから行われたことなどにより減少したものとみられる(図28)。

図28 洋服の四半期別支出金額の対前年同期実質増減率の推移



平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震

6月14日午前9時ごろ、岩手県内陸南部を震源とする強い地震があり、岩手県奥州市及び宮城県栗原市で震度6強を観測したほか、東北地方を中心に、北海道から関東・中部地方にかけて、震度